

右之趣、與醫師與詰醫師、相達候間、寄合醫師、御番醫師之面々、江可被達候、尤其餘、相達可然面々、江は可被達置候事、

十月

〔徳川禁令考四十九文武藝術〕年月闕

百姓より醫師ニ相成候者、苗字其外之儀ニ付、阿部播磨守より問合、

播磨守領分在町百姓共之内、病身等ニ而、無據醫師ニ相成度旨願出候得、糺之上、相違も無之候得、申付來候、右之者剃髮等に相成、自苗字相名乘、十德著用致候而も、差留候ニも不及候哉、

但名主宿所ニ而吟味有之候節、苗字相除取扱候筋ニ御座候哉、

下ダ札書面本文并、但書共、御書面之通ニ而可然存候、○中略

一前條之者共、苗字名乘候而も、帶刀ハ不及致心得ニ御座候、他領等、江罷越候節、若帶刀致候は、差留候而宜敷御座候哉、

但手鹽師之門弟ニ相成候共、俗醫ニ而罷在候得、苗字ハ不爲名乘候心得ニ而宜敷御座候哉、

下ダ札書面、在町之醫師、帶刀ハ不相成筋有之候、俗醫之分、苗字ハ吟味等之節ニ無之候共、爲相名乘

不申方と存候、

一往古より、醫師ニ而、郷中ニ罷在、苗字相名乘、帶刀致來候者、いつ頃より右之趣、差免候儀と申儀も、不相分候得共、仕來之儀ニ付、其儘ニ而差置候而も、苦ケ間敷哉、併帶刀致候儀ハ、差留候筋ニ御座候哉、

下ダ札書面、仕來ニ候共、郷中ニ居候醫師、帶刀ハ、御差留候方と存候、

一町在抱ニ相成居候醫師共、出入等有之、領主役所、江呼出、致吟味候節、ハ、百姓同様ニ取扱候而も、不苦筋ニ御座候哉、